

NHK大河ドラマ「篤姫」と島津日新公のいろは歌

所長・税理士 今林 重夫

NHK大河ドラマ「篤姫」の第8回が終わりました。事務所通信が皆様のお手許に着く頃は第10回を迎えようとしていると思います。出演者の皆さんが篤姫が育った鹿児島島の風土や歴史を学んだ中に「島津日新公のいろは歌」もあり、多くの出演者の方が今後の自分の生き方の指針にしたいと選ばれた歌が何首もあったと聞きました。加世田市（現南さつま市）発行の資料から順次紹介してきましたが、後10首となりましたのでうち5首を一気に紹介しましょう。

いわゆる「いろは歌」はご承知の通り次の通りです。

「色は匂えど散りぬるを 我が世誰ぞ常ならむ
有為の奥山今日越えて浅き夢見し酔ひもせず」



き 聞くことも又見ることも心がら 皆まよひなりみな悟りなり

（語義）心がら = 考えよう・心の持ちよう。

（大意）我々がかねて聞いたり、見たりすることも、自分の心の持ちようで、皆、迷いともなり、悟りともなる。（心に曇りがあると真相を見ることは難しい）

ゆ 弓を得て失ふことも大将の 心一つのでをばはなれず

（語義）弓 = 弓矢の道・武道。弓を得て = よく軍勢の心をまとめて、士気を鼓舞する。

失ふ = 得るの反対で威勢が衰えること。手をばはなれず = はたらきによるものだ

（大意）軍勢の心を得るのも、又軍勢の心を失うのも、ただ大将たる者の心一つによるものである

め めぐりては我が身にこそは事^{つか}へけれ 先祖のまつり忠孝の道

（語義）我が身にこそは事（つか）へけれ = 「こそ」「は」は意味を強める助詞。我が身に仕えるものであると強くいったもの。

（大意）先祖のまつりや忠孝の道というのは、その末は自分自身にめぐってくるものであるが、これは自分が自分に仕えているようなものである。

み 道にただ身をば捨てむと思ひとれ かならず天のたすけあるべし

（語義）道に = 正しい道に。ただ・・・思ひとれ = 十分に思い定めよ・決心せよ。

（大意）正しい道のためには、いつでも身を捨てようと覚悟しておれよ、その真心は必ず天を通じて、神のたすけを受けるだろう。

し 舌だにも齒のこはきをば知るものを 人は心のなからましやは

（語義）舌だにも = 舌でさえ。なからましやは = 「まし」は推量の助動詞、「やは」は反語となる助詞。ないでよかろうか、いやなくてはならぬ。

（大意）舌でさえも、齒のこわいぐらいのことは知っているのに、まして人間は相手を見る心がなくてよかろうか。